

野生鳥獣による 生活環境被害防止対策 及び自主防除組織支援対策

京都橘大学 現代ビジネス学部 現代マネジメント学科
東、糸井、岡本、尾崎、坂本、中川、前田、吉田

発表の流れ

1. 事業概要
2. 評価票への指摘と改善案
3. 事業への提案

発表の流れ

1. 事業概要
2. 評価票への指摘と改善案
3. 事業への提案

背景①

- * 日本全国での鳥獣被害額は申告されているものだけでも年間200億円以上になる。
- * 6割が獣類、4割が鳥類である。
 - * 獣類の9割がイノシシ、シカ、サルである。
 - * 京都市ではサルの被害が多い。

背景②

- * 平成18年度から、サル等の野生鳥獣による生活環境被害を防止するためにこの事業は始まった。
- * 平成19年度より、外来生物法に基づく防除計画を策定し捕獲に着手した。
- * 平成22年度から専門機関に生息調査や捕獲業務を委託することによりアライグマ対策を強化している。

「生活環境被害」とは

- * 主として市内周辺区を中心に、シカ、イノシシ、サル等の野生鳥獣が住宅地に現れて、家庭菜園などが荒らされるなどする被害のこと。
- * 人が襲われるといった人的被害も発生している。
- * アライグマについては、木造の建物に侵入し、建物内部での子育てや、ふん・尿などによる汚損被害、柱に爪痕を残すなどの損傷被害が発生している。

目的・対象

目的

- **野生鳥獣による生活環境被害の防止**
→ **自主防除組織への支援**

対象

- **野生鳥獣による生活環境被害を受けている地域住民**

被害防止の為の取り組み

提供

- 自主防除組織の設立や活動への補助金や物品の提供

委託

- 大規模な追い払いや外来生物の捕獲
- サルの生態調査・出没情報システムの構築等

京都市内組織への補助金額

名称	主な活動内容	補助金額
北区猿害対策協議会	花火等を用いた追払いや研修会等	㉗ 80千円
		㉖ 149千円
左京区獣害対策チーム 連絡協議会	サル、シカ、イノシシ等による被害防止に向け、 各地域事情に応じて猟友会等とも連携して対策	㉗ 998千円
		㉖ 919千円
山科区獣害対策チーム 連絡協議会(H27,7,30設置) (㉖山科区獣害対策チーム)	花火等を用いた追払いや住民への啓発等	㉗ 198千円
		㉖ 199千円
洛西地域猿害等対策協議会	花火等を活用した野生鳥獣の追払い、研修実施	㉗ 150千円
		㉖ 150千円

経費の内訳については、各団体から実績報告書(領収書を添付)を提出してもらい、
交付額を確定している

注) ㉖→26年度
㉗→27年度

左京区における鳥獣対策

鳥獣保護法

- 計画的捕獲
- 被害発生時の有害個体の捕獲
- 捕獲活動の支援

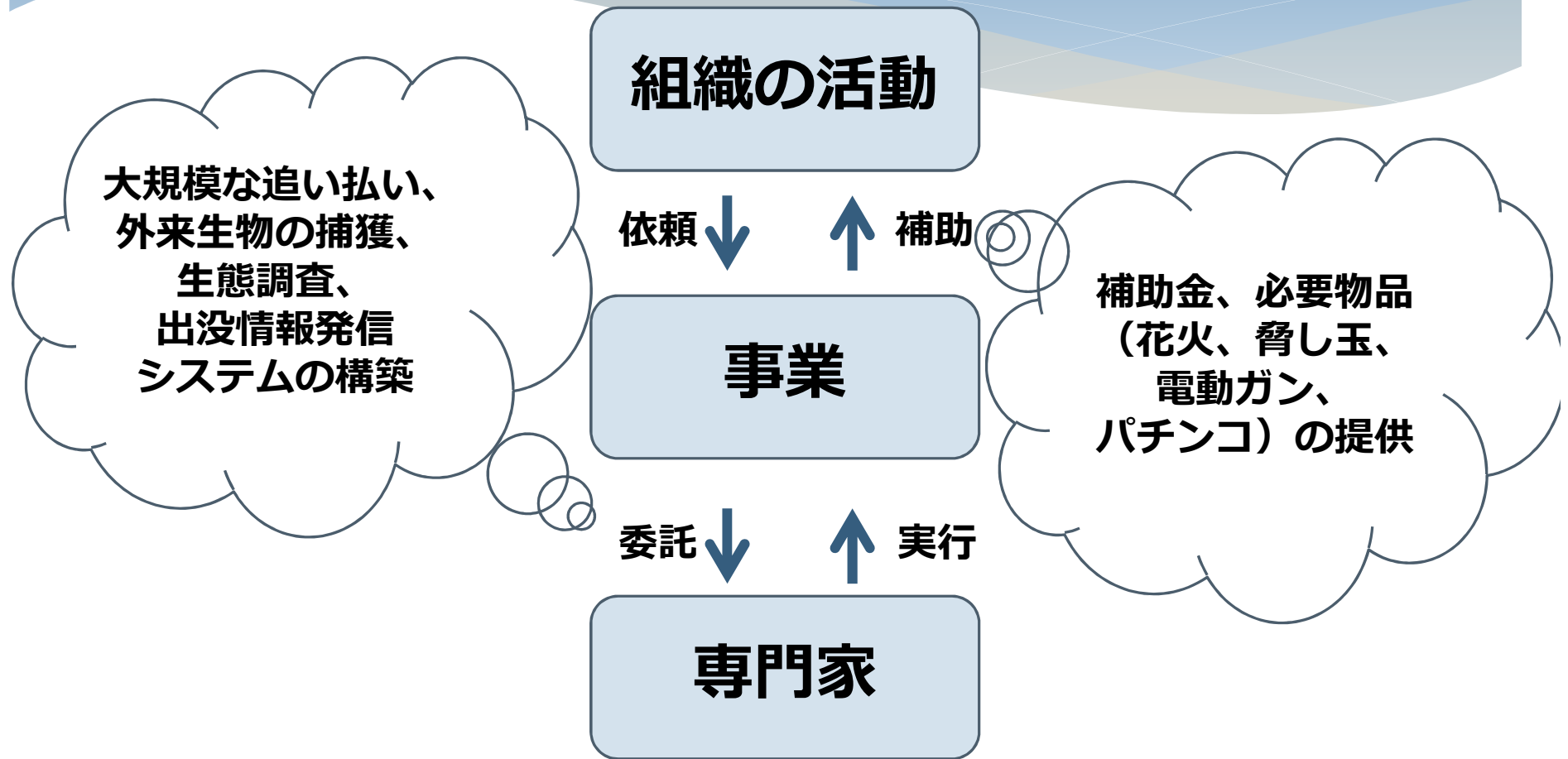
外来生物法

- 関西野生生物研究所に
アライグマ捕獲を委託

【参考】左京区役所への通報・相談件数等（サル）

	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度 (9月末)
件数	82件	124件	14件	99件

事業の流れ



発表の流れ

1. 事業概要
2. 評価票への指摘と改善案
3. 事業への提案

「概要」についての指摘

活動内容 (どのような手段で)	<p>地域住民が主体となった自主防除組織の設立や追払い活動に対し、補助金や必要物品を提供する。また、大規模な追払いや外来生物の捕獲、サルの生態調査・出没情報発信システムの構築等については専門家に業務を委託する。</p> <p>「北区猿害対策事業」（23、24年度事業）及び「山科区獣害対策チームの運営」（23～25年度事業）について、区政策提案予算としての事業は23年度で終了したが、24年度からは、「野生鳥獣による生活環境被害防止対策及び自主防除組織支援対策」事業と一体となって継続的に実施した。（北区猿害対策事業は24年度で、山科区獣害対策チームの運営は25年度で終了）</p> <p>また、区政策提案予算システムに係る事業提案により、平成26年度発足の「左京区獣害対策チーム連絡協議会」に対する支援を行った。</p>
---------------------------	---

補助金、必要物品等 活動内容欄を具体的に記載してはどうか

概要を具体的に提示することで
事業の内容をより汲み取りやすくできる。

⇒ 事業の重要性の明確化

「概要」についての改善案（例）

- 補助金
 - 自主防除組織設立・追い払い活動で提供する金額
- 必要物品
 - 花火・脅し玉・電動ガン・パチンコ等
- 大規模な追い払い
 - サル等の野生動物が出没した際、
各機関が連携して行う追い払いのこと
(区役所・野生鳥獣保護管理協議会・

文化市民局・産業観光局等)

「活動内容」への指摘と提案

地域住民が主体となった自主防除組織の設立や追払い活動に対し、補助金や必要物品を提供する。また、大規模な追払いや外来生物の捕獲、サルの生態調査・出没情報発信システムの構築等については専門家に業務を委託する。

活動内容
(どのような手段で)

「北区猿害対策について、区被害防止対策年度で、山科区

また、区政議会」に対す

支援先が記載されているのみで、支援先でどのような取り組みがなされているのかが分かりにくい。

チームの運営」(23~25年度事業)度からは、「野生鳥獣による生活環境」を施した。(北区猿害対策事業は24年

足の「左京区獣害対策チーム連絡協



現在行っている活動を記載する
例.実際にどのような連携を行っているのか
委託した団体がどのような活動をしているのか

「指標」についての指摘

目標達成度	指標名			単位	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	
指標 1	サルの目撃通報件数			目標値 …①	件	470	300	285	176
				実績値 …②	件	300	285	176	
				目標達成度 (②÷①)	%	136.2	105.0	138.2	
	区分	成果指標	種類	減少することが良いとされる指標	評価	かなり良い	良い	かなり良い	
指標 2	アライグマの目撃通報件数			目標値 …①	件	79	80	86	72
				実績値 …②	件	84	91	76	
				目標達成度 (②÷①)	%	93.7	86.3	111.6	
	区分	成果指標	種類	減少することが良いとされる指標	評価	良い	普通	かなり良い	
				総合評価	かなり良い	普通	かなり良い		

- * 目撃通報件数だけの指標では実際の活動内容との結びつきが分かりにくく、事務事業名との関連も不明瞭である
- * 実際の被害状況等が不明確である

「指標」についての改善案

指標①

- ・ 被害件数(成果指標：減少することが良いとされる)
 - 生活環境被害の軽減を目的としているため、被害件数を指標とする

指標②

- ・ 対応依頼に対する補助件数の割合
(成果指標：増加することが良いとされる)
 - 通報・被害に対してどれだけ活動・支援が行われているかが生活環境被害の軽減に繋がるため、依頼に対する割合を指標とする

「効率性」への指摘と提案

No.	区分	単位	H25年度	H26年度	H27年度
①	事務事業	事業	1	1	1
②	年間経費（事業費+人件費の合計額）	千円	29,339	32,188	30,699
③	単位当たり経費（①×1,000円）	円/単位	29,339,000	32,188,000	30,699,000
④	単位当たり経費変動率（%）			9.7	-4.6
補助件数に変更			評価	悪くなった	良くなった

- 効率性の分母が「事務事業」となっている
- 「補助件数が、この事務事業の最も主要な活動を表す区分として適切である。」
- ⇒ 一件あたりの補助に対し、どれだけの費用がかけられているのかを表すことができる。

発表の流れ

1. 事業概要
2. 評価票への指摘と改善案
3. 事業への提案

事業への提案

被害を未然に防ぐ対策を実施・委託できないだろうか

例.「鳥獣被害対策実施隊」の設置

- ① 民間隊員の報酬や補償措置を条例で定める
- ② 市町村長が隊員を指名または任命する

活動内容として

- ・ 柵作り 例.電気柵
- ・ 動物が嫌うものを使用した対策（マネキン・音波措置）
- ・ 植林

参考文献

* 農林水産省

(http://www.maff.go.jp/j/seisan/tyozyu/higai/pdf/h280219_jissitai_panfu.pdf)

* 「希望あふれる日本へACTIONなう！」 2015.04.15

(<http://action-now.jp/archives/1539>)

* 「左京区における鳥獣対策」

(<http://www.city.kyoto.lg.jp/sakyo/cmsfiles/contents/0000159/159213/jyugai.pdf>)

ご清聴ありがとうございました。